

福岡県立浮羽究真館高等学校長

自己評価				
学校運営計画 (4月)				評価 (総合)
学校運営方針	校訓「立志・錬磨・不愧」に基づき、うきは市唯一の県立高校として、地域の発展と充実のために貢献するとともに、さらには全国、世界で活躍しようとする意欲と能力、行動力を持ったグローバル人材を育成する。			B
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
昨年度までの2年間は学び合いを通じた授業改善を行ってきたが、今年度は「新たな学び(主体的、対話的で深い学び)」の実践を通して授業改善と確かな学力の一層の進展を図る。また、ICT機器の効果的活用を図り、生徒の学力向上に寄与できるよう力を注ぐ。 また、昨年度は、本校生徒の姿を地域に発信する取り組みを強化したことで、地域からの評価も高まっており、生徒自身の自尊感情や主体性の高まりにも繋がった。今年度も究真館三原則の遵守や、本校独自の文化を大切に継承することで、自尊感情や奉仕の精神などの豊かな人間性の涵養を推進していく。 進路指導では、入試情報や求人情報を的確に提供することで、生徒は希望進路を達成できた。今年度は、さらにキャリア教育を充実させ、生徒の職業観や探究心の育成を図る。また、そのことを通じて、高い志を持たせ、自己実現に向かわせる。	「高い志」の育成	・キャリア教育(職業観の育成、在り方・生き方の探求、探究心の育成)の推進 ・クラス担任とチューターによる丁寧な進路ガイダンス ・学系に応じた資格取得の奨励		
	「確かな学力」の育成	・AL(「主体的、対話的で深い学び」)の実践を通じた授業改善の推進 ・生徒の理解を助けるICT機器の適切かつ積極的活用 ・アダプティブラーニングの研究を通じた、「個」に応じた指導の推進 ・「指導」と「評価」の一体化を目標とした適切な評価法の確立		
	「豊かな人間性」の育成	◎究真館三原則の徹底(「時を守り 場を清め 礼を正す」) ・互いを認め、いじめや差別を絶対に許さない人権意識の涵養 ・達成感を味わい、自信や誇り・愛校心を育む学校行事の運営 ・生徒が主体的に取り組む生徒会活動や部活動の推進 ・地域等と連携した「総合的な探究の時間」や学校行事の推進 ・社会に貢献する奉仕の心を育むボランティア活動参加の奨励 ・交通安全教育の充実		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
学習指導	授業規律の確立	黙想指導や挨拶を徹底する。	B	・欠席1日平均10.5人、遅刻15.4人。出席率97.2%、遅刻率4.0%。わずかな遅刻も多く、本人への声かけ、家庭との連携を徹底し、時を守る意識を高める必要がある。 ・電子黒板を積極的に活用し、授業効率は向上しつつある。次年度は生徒自身がICT機器を活用して、主体的、対話的で深い学びになるような授業をいかに展開していくかが課題である。 ・観点別評価については評価の場面や評価規準、適切な成績処理等について検討し改善していく必要がある。 ・学習時間調査を通して生徒が自分の学習を振り返って改善に努めたり、進路希望や特性に応じた個別学習ができるように、Classiに関する研修を行いさらに活用していく。
		出席率97%以上、遅刻率2%以下を目指す。	B	
		学年、他分掌との連携を深め、チャイム席を徹底させる。	A	
	「わかる」授業を追求するための授業改革	主体的、対話的で深い学びの実践を通じて授業改善を行う。	B	
		電子黒板やICT機器を積極的に活用し、授業効率を向上させる。	A	
		「指導」と「評価」の一体化を目指す「適切な評価法」を確立させる。	A	
基礎学力の定着	Classiを活用して家庭学習時間調査を行い、生徒の状況を正確に把握し、学習習慣の定着を図る。	B		
	生徒の特性に応じた指導を促進するためにClassiを活用する。	C		
	考査の事前指導や学習相談会の実施、長期休業中の補習を通して力をつけさせる。	A		
生徒指導	いじめや差別を許さない人権意識の涵養	いじめアンケートや面談を通して生徒のメッセージや変化を捉え、いじめ防止対策委員会を中心に組織的に対応する。	A	・人間関係の把握に加え、いじめや人間関係トラブルに向かわないような心を育てる積極的な取り組みを行う。 ・マナーアップキャンペーンをより生徒主体の取り組みにしていくことで更なる効果を生み出す。 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響や生徒数の減少などによる行事の在り方や、運営方法を時代にあつたものになるように検討を加える。 ・今年度は全学年で地域清掃活動を行うことができた。次年度は部活動単位など小さな単位でも行える環境を整える。 ・交通安全に関する講演会や集会での注意は頻繁に行ってきたが、その効果が十分でない。広域な通学区域ではあるが、現地での登下校指導など範囲を広げた指導を行う。
		外部講師による講演会や人権教育授業を通して、SNSの正しい使い方やトラブル等の防止、人権意識の涵養に努める。	B	
		生徒会を中心にいじめ防止に向けた取組を推進する。	B	
	生徒が主体的に取り組む生徒会活動の推進	マナーアップキャンペーンを通して、各種委員会の活性化を図り、生徒一人一人の自己有用感を高める。	B	
		学校行事では自信や誇り、愛校心を育むよう生徒会を中心に企画・運営を行う。	A	
		ボランティア活動を推奨し、地域に貢献する奉仕の心を育成する。	A	
交通事故0のための交通安全教育の充実	外部講師による交通安全講話を実施し、交通安全の意識向上を図る。	B		
	警察署と連携し、バイク通学者に対して交通安全講話や実技講習を実施する。	B		
	PTAとの挨拶運動を通して、交通ルールやマナーについて注意喚起を行う。	A		
進路指導	進路実現100%を目指す	進路希望調査を年2回行うことで生徒の希望進路を把握し、クラス担任などによる進路ガイダンスを実施する。	A	・第3学年団と進路指導部で連携し、就職情報・入試情報の共有をどのように行っていくかが課題である。 ・総合的な探究の時間の取り組みを精査・検討し、系統的な取り組みを考えることが課題である。 ・Classiを用いた個別教材の提供など学習・進路に繋がる活用方法を検討していく。
		入試情報・求人情報などを収集・分析し、的確な進路指導を行う。	A	
	キャリア教育を推進する	総合的な探究の時間を活用し、進路学習や課題研究の取り組みを充実させる。	B	
		キャリアパスポートを活用し、活動の記録や振り返りを行い、自己の生き方や進路を考えさせる。	B	
	進路に沿った学習時間の増加に努める	課外授業・土曜チャレンジセミナー・校外模試などの学習機会を計画的に運営し、学習意欲の向上を図る。	B	
		クラウド学習支援サービスなどを活用し、模試分析や生徒の特性に応じた個別最適化の指導を推進する。	B	

学校関係者評価		
評価 (総合)	自己評価は	
A	A 適切である B 概ね適切である C やや不適切である D 不適切である	
	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
	A	・本校の志願者をなんとか増やしてもらいたい。そのためにも、中学校訪問を広範囲で展開するなどの工夫をして欲しい。また、朝倉市からの志願者増をなんとか出来ないものか検討して欲しい。
	A	・校長先生は講話の中で、生徒と教員をよく褒めながら、生徒の活動意欲を高める工夫をされている。教員側は、校長先生の意図を汲んでその効果が十分に発揮できる指導をしてもらいたい。 ・時代の潮流に合致した校則となるよう、毎年見直しをしてもらいたい。そのためには、教員だけでなく生徒からの意見も拾い上げて検討した方がよい。
A	・進路実績は、生徒の入学時の夢をどれだけ叶えることができたかで評価をし、課題を探ってもらいたい。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
研 修	職員の授業力の向上と、生徒が学ぼうとする力の向上	すべての生徒が50分学び続けることができる、質の高い授業づくりに取り組む。 公開授業や授業づくりのための職員研修を行い、授業力を高める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善研修では、1学期は校内の教員を講師として、また、2学期は教科会を中心に進めることを継続する。</li> <li>・職員研修において、教員に負担のない研修に努める。</li> <li>・今後、ICT機器の使用法やICT教材をまとめたライブラブリづくりを推進する。</li> <li>・次年度も職員研修において講師を招聘し、①救急救命法②「発達障がい」への理解③人権同和教育の研修を実施する。</li> <li>・「朝読書」を推奨するとともに図書館利用者増に努める。</li> </ul>
	ニーズに応じた職員研修の実施	各分掌と連携し、本校の課題に即した研修(年3回)を計画する。 教育センターの研修など、校外の研修への参加を推進する。	A	B	
	図書館の活用促進と読書習慣の確立	朝読書の徹底や、書籍・図書館に関する情報発信を行い、生徒や職員の図書館の利用を推進する。 読書週間の校内放送での本の紹介や読み聞かせ、図書館便りの発行などを通して、図書委員会の活動の活性化を図る。	B	B	
庶 務	式典・儀式の計画及び庶務関係行事を円滑に実施する。	式典・儀式や行事は、関係部署との連絡調整を密にし、一か月前を目途に計画する。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の計画については、コロナウイルス感染症対策のため、遅れ気味だった。今後は速やかに対応する。</li> <li>・火災避難訓練は無事開催できた。今後は、洪水対策も考える。</li> <li>・文書や資料については、先生方の御協力もあってスムーズに作成できた。今後も早めに取り掛かる。</li> <li>・電話や日直の当番は組みにくかったが、先生方の御協力で支障は出なかった。今後は学校への連絡は、Classiの活用を進める。</li> <li>・PTAや同窓会の活動については、今年もコロナウイルス感染症の影響を大きく受けた。次年度は、終息後にスムーズに再開できるように準備する。</li> </ul>
		行事要項を速やかに作成し、職員に周知100%を心掛ける。	A		
		消防署と連携し、防災避難訓練を11月に実施する。	A		
	丁寧かつ正確に諸務を実施する。	教育必携、学校要覧、新入生のしおりを計画的かつ正確に作成し管理する。	A	A	
		年度当初の職員連絡網、日直当番割などを正確かつ速やかに作成する。	A		
		各種奨学金等の情報を生徒、保護者に、確実に周知する。	B		
PTA役員、同窓会理事と協力して諸行事を成功させる。	PTA役員との連絡を密にし、PTA活動の活性化を図る。	B	B		
	PTA活動を広く発信し、各種行事への参加拡大を図る。 同窓会行事への開催協力を行い、育英会奨学生の選考、激励等、適切に実施する。	B			
学校活性化推進	中学校等訪問の充実	中学校等へのアピールポイントを明確にし、職員が共有する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ更新マニュアルを作成し更新頻度を高める。</li> <li>・学校案内パンフレットを5月上旬に完成させる。</li> <li>・授業視察など地域の小中学校と連携した活動に取り組む。</li> <li>・中学校訪問等にてうきうきスポーツ教室の周知を図る。</li> <li>・学校開放により小・中・社会体育連携活動を充実させる。</li> </ul>
		訪問先の中学校等からの声をふまえて持参資料等を工夫する。	A		
	生き生きとした生徒の姿を発信する	ホームページやSNSの内容をよりタイムリーにより効果的に掲載する。	B	B	
		体験入学等の準備を計画的に行い、中学生や保護者に本校の魅力を伝える。	A		
地域に根差した活動の充実	地域と連携した事業等を推進する。	A	A		
	スポーツを通しての「小・中・社会体育連携活動」を充実させる。	B			
保 健 環 境	健康教育活動の推進	定期健康診断を計画的に実施し、健康の保持増進に努める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期健康診断や健康相談、教育講演会など、予定通りに実施することができた。来年度も状況の変化に柔軟に対応できるように準備を怠らないようにする。</li> <li>・感染症対策は継続して行っていく。諸行事を行う際には、来客への協力もお願いしていく。</li> <li>・今年度は美化コンクールを2回実施することができた。来年度は美化委員会活動をさらに活発化させ、生徒中心の美化活動を進めていく。</li> <li>・定期的に教育相談委員会を実施することにより、生徒が抱えるさまざまな問題の早期発見、対応について意見を交換することができ、全職員で取り組むことができたので、次年度も継続する。</li> <li>・スクールカウンセラーとの連携をこれからも継続し、生徒や職員が気軽に相談できる環境を整えていく。</li> </ul>
		健康相談を適宜実施し、諸行事における事故を未然に防止する。	B		
		性と心の相談事業(教育講演会を含む)を各1回以上実施する。	A		
		運動会や諸行事における新型コロナウイルス感染症・熱中症対策に取り組む。	A		
	環境美化意識の向上	美化コンクールを実施し、生徒の美化意識の向上を図る。	A	A	
		ゴミの散乱防止や美化意識向上に関する情報発信に努める。	B		
定期的な美化活動や清掃点検活動等を行い、学習環境を整える。	定期的な美化活動や清掃点検活動等を行い、学習環境を整える。	A	A		
	不登校やいじめ問題等の未然防止や早期解決を目指し、教育相談委員会を開催する。	B			
教育相談委員会の定期開催を主軸とした、全職員での組織的な対応	教育相談に関する情報を対象生徒の学年だけではなく全職員で共有し、組織的な対応を図る。	B	B		
	問題解決に向け、専門医の受診やスクールカウンセラーとの連携を図るため、窓口としての機能を果たす。	B			
情 報 管 理	校務用ネットワークの円滑な活用と運営	新しい校務用パソコンのトラブル対応やソフトウェアの管理業務を確実に行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務用ネットワーク内で、カラー複合プリンターに印刷が集中しているので、プリンター利用を分散することが課題である。</li> <li>・電子黒板・タブレットについては、各教科での電子教科書やソフトウェア教材等の整備が課題である。</li> <li>・ChromeBookについては、まず基本的な講習を全員に受けてもらい、使用方法を習得してもらう必要がある。</li> <li>・校務用パソコンのファイル転送システムが出てきたため生徒用サーバの利用が多くなってきた。今後は生徒サーバの整備や利用が課題である。</li> <li>・リモート機器について、講演・講習などの校内配信はほぼ安定的に行えるようになった。文化祭などの動きのある配信をどのように行おうかが課題である。</li> </ul>
		校務用パソコンの利便性とセキュリティの向上を考慮し各教科や分掌からの要望に可能な限りこたえる。	A		
		共有や教材のドライブの整理や容量の管理を定期的に行う。	A		
	電子黒板・タブレットの整備と管理	電子黒板・プロジェクターなど各教科や分掌からの要望に可能な限りこたえ利便性を向上させる。	B	B	
		無線LANの配備を受けタブレットやChromebookの整備や利用促進を行う。	B		
		TeamsとOneDriveなどの利用促進。	B		
	リモート機器の整備と管理	校内行事でのリモート配信の利便性を高めるため、機器の整備を行う。	B	B	
		iPhoneやChromebookのLTE機器の整備や管理を行いコロナ対策に備える。	B		
Zoomを利用した研修会などのためにパソコンやカメラなどの機器の整備を行う。	A	A			

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・特になし。
A	・特になし。
A	・「究真館だより」が各家庭に回覧で回ってくるが、中学生が読みたくなる内容になるように工夫してもらいたい。 ・うきは市のうきはブランド推進課や生涯学習課等との連携でのボランティア活動を推進し、浮羽究真館高校の存在価値を高めてほしい。
A	・不登校の生徒の指導のために、小・中学校時代の生活の把握をすることは大変有効である。
A	・タブレットにexcelやwordが入っていないなら、互換性のある代替のアプリを使える環境を整えるなどの方策を考えてはどうか。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
1年	生徒の自己理解と相互理解	面談・キャリアパスポートなどを活用する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の自己理解と相互理解を深めるために、さらに具体的に進路を考えさせる手立てを講じる。</li> <li>ボランティアの意義を伝え、生徒と教師が共に積極的に参加するようにする。</li> <li>Classiに付属している学習動画配信などを活用できていないので、活用を推進する。</li> <li>各種検定試験を受検する意義について、具体的に伝え続ける必要がある。就職や進学で、有利になることや、自身の向上心の涵養に繋がることを理解させる。</li> <li>究真館三原則について、学年集会等の機会あるごとに意識を喚起する。</li> <li>出席皆勤者は、目標達成できなかった。次年度は、保護者とさらに連携し、皆勤を目指すよう意識させる。</li> </ul>
		委員会活動や行事、部活などの個々に応じた活躍の場を設定する。	B		
		ボランティア活動などを紹介し参加を奨励する。	B		
	基礎学力の定着	ICT教材やClassiを用いて、生徒に応じた指導をする。	B	B	
		家庭学習を定着させる。	B		
		英検、漢検などの各種検定の最低1回の受験を奨励する。	C		
	基本的生活習慣の確立	学校生活の中で究真館三原則を意識させる。	B	B	
		出席皆勤者40名以上を目指す。	B		
		生活態度・服装頭髪指導などに関する情報を教員間で共有する。	B		
2年	基礎学力の定着	家庭学習(予習・復習)の習慣を身に付けさせる。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の習慣が生徒によって差がある。家庭学習時間調査を活用し、学習習慣を身につけさせる。課題の量・質については、教科間での調整をする。</li> <li>「場を清め」を実践しているが、実現できていない。ゴミなどを捨てさせない雰囲気づくりを推進する。</li> <li>皆勤者以外の生徒についても遅刻・欠席を簡単にさせない指導を継続する。</li> <li>進路意識がまだまだ低いので、3年生の進路実現に向けた取組等の情報を伝えていく。</li> </ul>
		目標を設定させ、その達成が80%以上となるように確認や評価を面談等で行う。	B		
	基本的生活習慣の確立	究真館三原則の徹底を意識した学校生活を送らせる。	B	B	
		年間出席皆勤者50名以上を目指し、生活のリズムを確立させる。	B		
	進路実現に向けた意識の高揚	インターンシップやオープンキャンパスへの参加を奨励し、検定資格の取得を推進する。	B	B	
		面談を通して、具体的な進路目標を設定させる。	B		
3年	希望進路実現100%を目指す	担任・チューターによる個人面談の実施。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路面においては、基礎学力や進路決定のための課外受講の大切さを意識することが遅かった。年度当初に進路意識を高めるとともに、学力の大切さを学ぶ機会を早い段階で伝えていく。</li> <li>学習意欲の涵養については、教務・研修課を中心にICT機器の積極的活用を行うことができた。次年度はさらに有効なICTの活用を推進する。</li> <li>人間力の育成においては、あいさつを徹底できたのが2学期になってからであった。また、時間の厳守についても1学期の大運動会を経て改善できていたが、2学期に一部の生徒はちょっとした遅刻が目立った。次年度は、行事で学んだ力を継続させる意識付けを行う。</li> </ul>
		授業・課外での基礎学力の定着。	B		
		面接指導・志望理由書指導を通して、自己理解を深め自己表現力を伸ばす。	A		
	学びの質の向上による学習意欲の涵養	各種資格取得の奨励。	A	A	
		授業においてICT利用を促進し、理解を助ける。	B		
		アダプティブ・ラーニングの推進。	A		
	人間力の育成	ボランティア活動への参加奨励。	A	B	
		元氣な挨拶をできるようにする。	B		
		時間厳守の徹底。	B		

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

【生徒指導】	・校則について、教員と生徒の両方からの意見をとり上げるためのアンケートを実施する。また、他校の取り組みについての情報を入手し、本校の校則を客観的に考える資料とする。
【進路指導】	・1学年から3年間の進路希望を蓄積し、希望進路が高まっているのか、下がっているのかを調査することで、進路指導及び教科指導が効果を上げているのか検証をする。
【学校活性化推進】	・「究真館だより」が中学生の関心を引き読みたくなる広報誌となるように、見出し、記事、写真などをさらに工夫していく。 ・うきは市や商工会議所との連携を推進し、ボランティア等でうきは市への貢献活動を幅広く行いながら、地域に根ざした学校作りを進めていく。
【保健環境】	・生徒の中学時代の担任等との連絡をとることで、不登校生徒の復帰のための手厚い支援の手立てを模索する。

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・出席皆勤者目標の40名に及ばなかったことは残念ではある。しかし、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中では、諸般の事情で欠席が増えることはやむを得ないこともある。
A	・2年生で希望進路がまだ確定していない生徒に対しては、志を持って学習に臨むことができるように、高い目標を持たせる指導をしてもらいたい
A	・目標の「希望進路実現100%」の希望進路とは、3年生になってからの希望進路なのか、1年生の時から持ち続けていた希望進路なのかは対外的には問われ、学校の評価につながるであろう。是非、1年生の時よりも高い目標を実現させる手立てを取って欲しい。
評価項目以外のものに関する意見	
・市報や新聞にラグビー部の記事がよく掲載されている。他の部活動でも、記事として掲載されるような広報活動ができると思われるので、今後の努力を期待する。併せて、全国大会出場をぜひ目指してもらいたい。	